

牧草と園藝



湿田に適する青刈作物

ハ ト ム ギ

雪印種苗(株)千葉研究農場 兼子 達夫

ハトムギ(*Coix Lacryma-JOBI L.var.Frumentacea L.*)は、もともと水辺によく自生しているもので、昔から薬用作物(ヨクイニン)として一部地方において栽培されてきた1年生イネ科作物である。

1. 性状 草丈は1.5~1.8mに達し、分けつおよび分枝をして伸長する。茎は硬く、倒伏に強い。

2. 発芽特性 湛水状態または地表面にわずかに滞水がある程度の過湿状態では、ほとんど発芽しないが、落水すれば直ちに発芽を開始する。

3. 生育特性 乾田よりも湛水条件で生育は旺盛であり多収が得られる。干ばつには弱く葉枯れを生じやすい。

吸肥性が強く、青刈での再生力も強いが、低温(霜)には弱く、低湿温暖地向き夏作の飼料作物として推奨される。

4. 栽培法

(1) **播種** 気温および地温の平均が15~20℃のときに播種適期であり、一般にソルガム類より約10日遅れて播種するのがよい

直播栽培では畦幅50~60cmに条播(播種量は10a当たり6~8kg)し、また移植栽培ではそれを約1カ月前に冷床か温床に播種して苗を仕立て、その苗を畦幅60cm×株間30cmに1株3本植えを行なう。苗は播種後30日で草丈約30cmに達し、これが移植の適期である。

ハトムギは元来野生に近い作物なので、極少量の肥料のほうが活着はよいが、しかし青刈収量を多くするためには追肥で十分増肥しなければならない。

(2) **肥料** 吸肥性が強く、ソルガムに近い収量が得られるので、青刈栽培では一般にチッソ20kg、リンサン15kg、カリ15kg(各成分量)程度が適量であり、刈取りごとに分施をする。また青刈2回目からは牛尿等の追肥を実施することにより再生力を旺盛にできる。

5. 利用法

(1) **青刈** 草丈1~1.5m頃の出穂前に刈取り、給与すると嗜好性が良好で、2~3回刈で生草収量は7~8t(乾物1~1.5t)に達する。寒冷地、高冷地では1回刈で4~5t程度の収量が得られる。

ハトムギの種子はヨクイニンと称して強心強壯利尿の特効があるとされており、その茎葉もいわゆる漢方薬臭が強いものであるが、家畜の採食には支障ないのみならず好んで採食する。しかし生育が進み茎が硬化するにしたがい、茎を食い残すようになる。

(2) **サイレージ** 出穂初期までに刈取りを行ないサイレージに利用できるが、茎葉の糖分含量は乾物中5~8%と低く、良質サイレージを調製しにくい面がある。出穂前に収穫したものは、サイレージ原料として水分が多過ぎるため半日~1日の予乾が必要であり、またカッターを用いて1~1.5cmに細断してサイロ詰めすることが望ましい。

乳熟期~糊熟期に達したものは茎の硬化が著しく、カッターで細断しても嗜好性が悪く、食い残しが多く不経済となるので注意を要する。

以上ハトムギは、トウモロコシやソルガム等の栽培できない湿田で生育する長大作物として、有利な作物であり、水田利用再編対策にともなう1奨励作物として価値があり、乳牛ならびに肉牛の主として青刈利用に適するものである。なおハトムギの栽培利用の詳細については本誌3月号に掲載を予定しておりますのでご参照下さい。

